

年末査定時の『年式落ち』は本当なのか？

車を買って替える際に、ディーラーで下取り査定をして貰ったり、当社の様な買取店にて査定した後に、『今なら〇〇万円ですが、年末で年式落ちがあるので来年購入の場合は〇〇万円くらいは下がります。だから早目に代替えした方がお得です』という様な話を耳にした経験のある方は多いかと思えます。

実際に中古車相場が下がるパターンは幾つかあるのですが、一番下がるパターンというのは『フルモデルチェンジやマイナーチェンジ』により、旧型モデルが下取りに大量に出回りだして値段が下がるというパターンですね。

例えば現行型プリウスがモデルチェンジした際は、旧型モデルが大量にオークションに出回った為、なんと約8カ月でオークションの平均落札価格が70万円も落ちました。いくら人気があってもあれだけ売れていると多すぎて相場が下がる典型的パターンですね。(下のグラフを参考)

本題に戻り、年末は下がるのかという点ですが、全ての車とは言いませんが基本的に相場は下がりますね。

理由としては、多くの中古車業者が年末にオークションで在庫の現金化を図って早目に売り切りを付けるのですが、買う側は『年が変わるんやから安く買いたい』という心理から応札が鈍く、あまり競り上がらないで安く落ちるパターンが一つ。

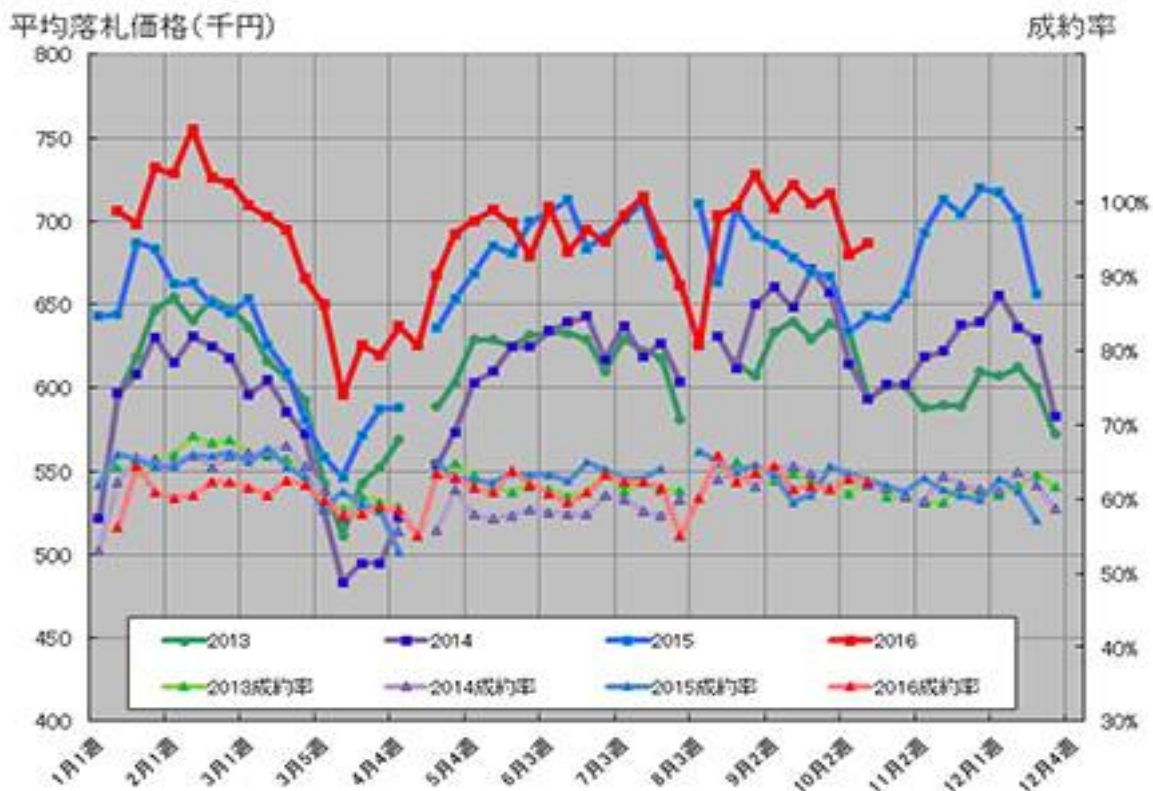
あとここ数年は中古車輸出の関係ですね。輸出先の税率や規制が1月にいきなり変わる事が多く、買い控えが起こります。そこで安く落ちた値段が新たな相場になり、全体も落ちるとい流れです。

年明けの新卒者需要で軽四などの一部の車は12月に値上がりしますが、基本的に下がると思っています。頂いた方が良いと思います。

いまは下火ですが、数年前に大量輸出されていた頃のロシアで規制が変わった際なんかは、11月に査定額25万円付いていた多走行コンパクトカーが年明けにはたったの2万円になったことがありました。これが本当の恐ロシア(苦笑)



相場推移グラフ(国産車のみ)



上のグラフはここ4年間の国産車相場推移グラフです。1年間の流れをザッと説明すると、年明けから新卒需要や決算需要で相場が上がり2月後半がピーク↓特需が終わり3月から流通台数が一気に増えて下がり始め、4月は底値↓年度が替わって落ち着いたところと夏のボーナスを前に消費意欲が沸いて5月後半から相場は上昇↓ボーナス特需が終わると輸出バイヤーが夏のバカンスで国へ帰ったり規制変更に備えて年末同様に買い控えるので相場は再び下落↓輸出バイヤーが戻った9月半ばから輸出向け車両をの相場は1ヶ月ほど高値↓その後一旦下がり冬のボーナス特需で上昇↓表面の年落ちや夏と同じような理由で輸出バイヤーが買い控えをして相場は下落。

といった感じで毎年同じ様な折れ線を描いています。昨年末から今年の前半が過去よりも平均額が高いのは円安の影響で輸出銘柄車両の相場が上昇したのが一番のポイントで、ここ何年もの間、輸出相場の上下が平均相場を動かしております。

このグラフは、あくまですべての年式の国産車全体の推移なので、輸出で人気のトラックやバスなども含まれており、今お乗りの車が同じ様に上がったり下がったりする訳ではないのでご注意ください。

<特ダネ情報!> *平成18年以降の軽トラックは、走行距離がどれだけ走っていても、エンジンが無事なら高価買取致します!決して廃車にはしないでください!